

TQMを理解し、経営課題の解決に挑む

日電精密工業株式会社
代表取締役社長 吉田 昌弘 氏



日本が戦後経済の立て直しに向かうさなかの1949年10月、岐阜県大垣市に通信装置用金型の加工を手掛ける日電精密工業所が産声を上げた。日電精密工業株式会社の前身である。半導体部品のプレス加工やIC用リードフレームのパンチング加工などで着実に技術力を蓄え、電気・電子関連の産業を下支えしてきた。同社は経営品質のさらなる向上を求めて2016年にTQM導入を決定。「一步前進」を社是とする堅実な姿勢は「経営課題をTQMで解決しようとするトップの強い意志」などにより、2021年度の日本品質奨励賞TQM奨励賞として実を結んだ。この受賞を「最終目標に向けた通過点」と捉える社長の吉田昌弘氏に受賞をめぐる思いや今後の課題などを聞いた。

1 恥ずかしい思いをしたディスカッションで発奮

—— 2021年度日本品質奨励賞TQM奨励賞の受賞、おめでとうございます。お喜びの声をお聞かせください。

吉田氏（以下略） 受賞を決めてから、まさに全社一丸となって取り組み、先生方には熱心にご指導いただきました。その結果として、受賞に漕ぎ着けたのですから感無量です。審査に向けた準備をする過程で社内のシステムを抜本的に見直すことができたし、受賞したことで世間から一定の認知をいただくこともできました。

ただ、この賞を受賞した多くの経営者の方々がおっしゃるように、受賞は決してゴールではないと思います。むしろ、この賞に挑むことで新たな課題が浮き彫りになった面もあります。ですから「あるべき経営の姿」を整える道のりのスタート地点に立ったというのが率直な感想ですね。

—— 社内外からはどのような反響がありましたか。

社内では、ある社員が受賞を知らせる記事の載った新聞を切り抜いて貼り出すなど、いち早くリアクションしてくれました。素直に嬉しかったのだと思います。

実はこの賞にチャレンジすることを決め、動き始めたころは正直に申し上げて「TQMって何？」と受け止める社員が少なくありませんでした。

しかし、TQM推進にあたる品質保証室スタッフの根気よい活動や、先生方の熱心なご指導のおかげで「活動すればなんらかの実績につながる」ことが関心の薄い社員にも分かってきたと思います。そういうことの積み重ねで、社員の意識が変わってきたように感じます。

対外的には反応がはっきりと分かれました。当社事業の主力である電気関係は、同じ製造業であっても、自動車産業とは受け止め方が違うと感じました。

例えば、TQMとかデミング賞と言ってもピンとこない会社もあるのです。つまり、その方面に詳しい方には評価していただけるのですが、知らない方にはまったく通じませんでした。

—— どのような経緯で受審を決めたのですか。

ある会で豊田自動織機のOBの方にお目にかかる機会がありました。そのとき「製造業ならデミング賞に挑むべきだ」と言われたのが始まりです。それを機に他社のデミング賞の受賞式に参加したり、中部品質管理協会のセミナーに足を運んだりしました。

たまたま、ある集まりで飯塚悦功先生の話を書くチャンスがあり、その後のグループディスカッションにも参加させてもらいました。しかし、私以外はトヨタグループの人ばかりなので話が噛み合いません。まず、そのことに愕然としました。

日本語を使っているのに、少し深い話になると言葉が通じないのです。この時の非常に恥ずかしい思いが動機の一つになっているのは確かです。

2 40年前導入していた品質改善活動に再度挑む

—— 社長とTQMとの出会いはいつ、どのような形で。

初めはTQMが何なのか分からなかったし、デミング賞との関係もよく飲み込めない状態でした。直接的